

# 古川 智映子（ふるかわ・ちえこ）

## 1、プロフィール

作家。歴史小説から現代小説まで、激動の時代を逞しく生き抜く女性の一代記など、評伝小説を数多く手掛けている。また、紀行『飛鳥Ⅱより愛を込めて』で、パリのヴィクトル・ユゴー文学記念館よりヴィクトル・ユゴー文学賞を受賞。日本文藝家協会会員。

### <生没>

1932(昭和7)年4月1日 ~ 2024(令和6)年7月29日

### <代表作>

小説『小説土佐古川—女性実業家・広川浅子の生涯—』『風花の城—弘前城満天姫—』『氷雪の碑』『性転換』『一輪咲いても花は花—葛西善蔵とおせい—』  
紀行『飛鳥Ⅱより愛を込めて』

### <青森との関わり>

青森県弘前市生まれ。青森県立弘前中央高校卒業。

## 2、作家解説

作家。ふるかわちえこ。本名は古川ぬい(こがわぬい)。1932(昭和7)年4月1日、青森県弘前市に生まれ、高校まで弘前で過ごす。

青森県立弘前中央高校を卒業後、上京し、東京女子大学短期大学部英語科に入学。その後、四年制に移り、同大学文学部日本文学科を卒業。卒業後は文部省直轄国立国語研究所に勤務し『国語年鑑』の編集に従事した。その後、私立武蔵野高校教諭となり、退職後執筆活動に入る。

本名で『阿仏房とその妻』(第三文明社、昭和 49 年)を刊行。その後筆名で『小説土佐堀川—女性実業家・広岡浅子の生涯—』(潮出版社、昭和 63 年)を発表した。主人公広川浅子は、大阪加島屋を切り盛りし、やがて大同生命を興し、さらに日本の女子教育の先駆けとして日本女子大学創設にも関わった近代女性である。この作品は毎日放送連続ラジオドラマになり、さらに東宝株式会社で舞台化され、八千草薫主演で東京宝塚劇場で上演された。また、同作品は 2015(平成 27)年のNHK連続テレビ小説「あさが来た」の原案となった。

その後『赤き心を—おんな勤王志士・松尾多勢子—』(潮出版社、平成 2 年)、『風花の城—弘前城満天姫—』(潮出版社、平成 4 年)、『氷雪の碑』(津軽書房、平成 19 年)、『炎の河』(喜怒哀楽書房、平成 21 年)等、次々に、歴史小説から現代小説まで、様々な時代の激動の波の中を逞しく生き抜いた女性の一代記を手掛け、優れた手腕を発揮している。また『性転換』(角川学芸出版、平成 20 年)は、いち早く性同一性障害の問題をテーマに取り上げた意欲作である。

故郷津軽を舞台とした作品も多く、2002(平成 14)年 1 月から『陸奥新報』(本社弘前市)に一年間連載した新聞小説『一輪咲いても花は花—葛西善蔵とおせい—』(津軽書房、平成 15 年)は、弘前生まれの私小説作家葛西善蔵の生涯を恋人浅見ハナの視点から描き、津軽の風土や人間たちを背景にして新たな葛西像を描き出している。

他に紀行『飛鳥Ⅱより愛を込めて』(鳥影社、平成 19 年)がある。これは 2006(平成 18)年 4 月に出航した豪華客船「飛鳥Ⅱ」に乗って第一回世界一周旅行に参加した作者の、100 日間の旅の記録である。1996(平成 8)年にはパリのヴィクトル・ユゴー文学記念館よりヴィクトル・ユゴー文化賞が贈られている。